ちくわホイール　レポート 1

小出樹

モデル　軽量ホイール　F 416g/R 522g
リム　　DEERBUST　30mm　290g
スポーク　　カーボン・チタン　丸スポーク
ハブ　　DEERBUST　RD147

使用タイヤ
IRC FORMULA PRO HOOKLESS TUBELESS READY S-LIGHT 25c 2.8/3.0bar

レポート
圧倒的な数値重量の軽さを誇る本ホイール、前後合わせても 938g と 1000g を軽く切る重量で、市場に出ているホイールを圧倒する。手で持って軽いのはもちろん、やはり走りの軽さは群を抜いていて、登りでは正に羽が生えたような走りを体感できる。

リム重量が軽いため踏み出しが軽く低速での加速に優れている印象で、勾配が上がるほど特徴が強く感じられる印象だった。また、フックレスホイールということで、かなり空気圧を下げることができた。ダンシングの際に潰れない程度の 3bar 付近まで落とすと、コーナリングはもちろん、カーボンスポーク も相まってか乗り心地もかなり良くなった。ただ、気密性については通常の練習時間（〜5h）では問題ないものの、一晩で 1bar 近くまで落ちてしまう。これについてはフロント、リアに差があるため、リム、タイヤの精度やシーラントの馴染みなど、考えられる要因がいくつかあると考えられるが、長時間のライドでどうなるかは今後試す必要がありそうだ。

また、ハブのベアリングの回転については低速ではかなり良く回ったものの、高速域での回転は若干劣るという印象を受けた、とはいえ比較対象は RACING ZERO のカルトベアリングであるため、一般的な軽量ハブと比べればかなり回転は良いと考える。

スポークについては前にも述べたように軽さよりも快適性が格段に高くなり、距離が伸びるに比例してアドバンテージが高くなる印象であった。ただ、先日報告した通り練習中にニップルとの接合部が破断してしまった。ブレーキングはしていたものの、無理な負荷ではなかったため、やはり耐久性への不安は拭えない印象はある。素材が変わり改善されたかを今後確認する必要があると感じた。

総括すると、非常に軽く、登りは確実にアドバンテージになると考える。心配していた平坦も重量のあるホイールには劣るものの、顕著に問題になるほどでは無いと感じた。しかし丸スポークということもあってか剛性が若干不足しており、せっかくの加速の良さも反応が鈍くなってしまい、弱くなってしまっている。平坦も剛性が高くなれば巡航がかなり楽になると感じると同時に、ブレードスポークでどれほど改善されるか、期待が持てる部分である。